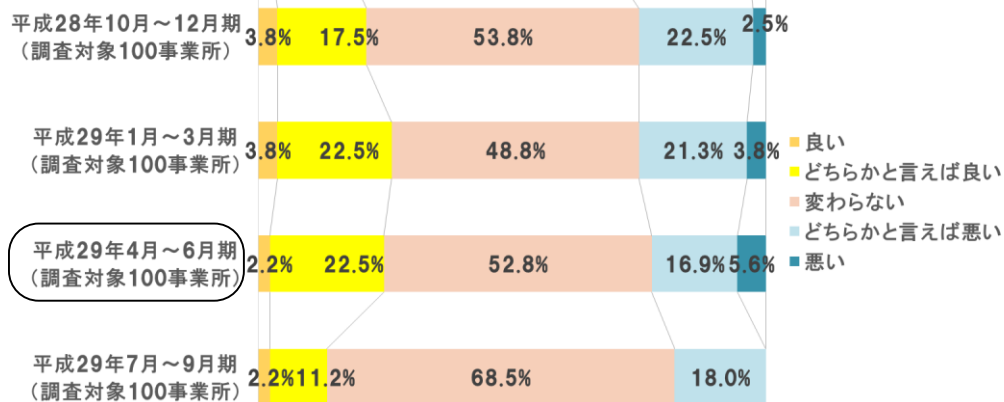


神戸商工会議所 経営経済四半期動向調査（29年4～6月期）調査結果（概要）

- 調査対象：神戸商工会議所会員89事業所 / 対象100事業所（回答率89.0%）
- 調査時期：平成29年6月下旬

1. 各社の業況について

- ◆前々期（昨年10～12月）・前期（1～3月）2期連続で緩やかな改善が続いてきたが、今期（4～6月）の業況は、前期とほぼ同様、横ばいにとどまった。
- ◆来期（7～9月）の予測は、「変わらない」との回答が7割近くを占めており、先行きに対して慎重な見方が強い。

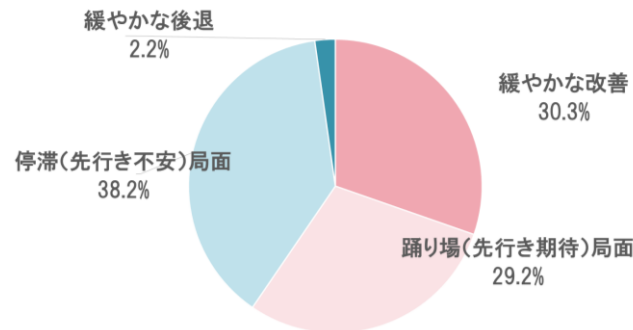


	「良い」「どちらかと言えば良い」	「どちらかと言えば悪い」「悪い」
前期との比較 1～3月期 →4～6月期	26.3%→24.7% ▲1.6%減少	25.1%→22.5% ▲2.6%減少
	<主な業種>食品・菓子小売、百貨店、旅行サービス	<主な業種>鋼材製造、婦人靴製造、衣料品販売
来期の予測 4～6月期 →7～9月期	24.7%→13.4% ▲11.3%減少	22.5%→18.0% ▲4.5%減少
	<主な業種>ホテル・旅館、工業用部品卸売	<主な業種>婦人靴製造、衣料品販売、食料品卸売

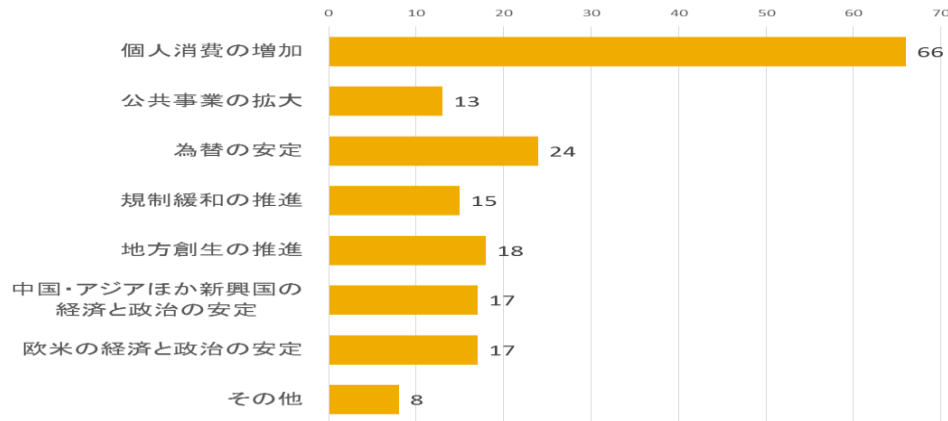
- 今期（4～6月）の業況は、前期（1～3月）と比べて、「変わらない」【52.8%/前期比+4.0%】が半数を占め、ほぼ横ばいに推移している。「良い」「どちらかと言えば良い」【24.7%/前期比▲1.6%】、「悪い」「どちらかと言えば悪い」【22.5%/前期比▲2.6%】は双方とも微減となった。
- 来期予測（7～9月）は、「良い」「どちらかと言えば良い」【13.4%/今期比▲11.3%】、「悪い」「どちらかと言えば悪い」【18.0%/今期比▲4.5%】の双方とも減少。「変わらない」との回答が7割近く【68.5%】を占め、先行き見通しについては、慎重な見方が強い。

2. 今年後半の日本経済の景気見通しについて

平成29年後半の景気見通しについて尋ねたところ、「緩やかな後退」「停滞（先行き不安）」が合わせて約4割【40.4%】を占める一方、「緩やかな改善」「踊り場（先行き期待）」の合計が約6割【59.5%】となり、先行きに対して期待が持てるとの見方が半数を超えた。



- ◆今後、景気回復に向けて重要と思われる項目・上位2つを聞いたところ、合計値で①「個人消費の増加」【66件】が最も多く、次いで、②「為替の安定」【24件】③「地方創生の推進」【18件】④「欧米の経済と政治の安定」④「中国・アジアほか新興国の経済と政治の安定」【各17件】の順番となり、業種・規模を問わず、国内需要の伸び、個人消費の拡大を重視する回答が大勢を占めた。
- ◆また、海外取引が多い企業を中心に、米国の政治動向の不透明感や、テロ等の地政学リスクへの懸念から、各国の政治・経済の安定や為替相場の安定を求める回答が多く挙げられた。



3. 各社・業界における特徴的な動き

<個人消費やインバウンドの動向について>

- 前年割れが続いていた免税品の売上が、昨年12月以降プラスへ転じ、インバウンド需要が好転しつつある。【百貨店】
- 総菜市場の拡大を受けて、食品大手が相次いで設備投資に動いている。【食品製造】
- 開港150年を機に、地元商業者などが考案したタータンチェック柄「神戸タータン」を活用した商品の売れ行きが好調。【ファッション団体】
- 商店街への来街者は一定数あるものの、個店の売上は低迷している。【衣料品小売】
- メンズウェアの販売は比較的好調を維持しているが、レディースウェアは苦戦が続いている。【服飾製造・販売】

<人材の確保について>

- 人材不足が続く中、全社的に業務フローの見直しと平準化を図り、生産性向上を実現。残業時間と人件費減少につながった。【パン小売】
- 新卒者の大手志向が強く、中小企業は新卒採用に苦戦している。若年社員の離職率も高く、人材の維持・確保が困難。【設備工事・総合建設業】
- 主要取引先である自動車整備工場では、後継者・若手労働者不足による廃業や事業の縮小が相次いでいる。【自動車部品卸売】
- 人材確保のため、時給見直し等で人件費率の上昇が懸念される。【医療機器卸売】

<海外との取引・原材料価格について>

- 為替相場が円高基調にあり、海外からの輸入コストが安定している。【靴・履物卸売】
- 為替動向と原料価格の急変というリスクはあるものの、鉄鋼（造船除く）の国内需要は堅調に推移している。【金属加工】
- 米国のTPP離脱をはじめとする世界の貿易体制の変化や、EU各国で相次ぐテロによる、経営への影響を懸念している。【音響・映像機器部品製造】
- 鋼材の値上がりによって取引商品の値上げの動きが急増。取引先の予算と合わないケースが出てきた。【産業用機械商社】

<その他業界における特徴的な動きについて>

- トラック運送会社における長距離ドライバー不足により、フェリー利用にシフトする動きがあり、利用者の増加に繋がっている。【フェリー運航】
- 大手海運会社の事業統合により、神戸港に寄港するコンテナ船が減る可能性があり、港湾サービス業務に多大な影響があると思われる。【運輸サービス】
- マンションの建築費が高騰しており、しばらく高止まりが続くと思われる。【マンション販売】
- 空室率は低下したものの、賃料が下落した状態が続き、回復が難しい。【不動産・サービス】